

岸和田地区 保護司会だより

【発行】 岸和田地区保護司会 岸和田市野田町1丁目5番5号 岸和田市立福祉総合センター2階
メ 野 久 寿 喜 TEL 072-438-6660
【発行責任者】 根 来 亮 裕 【印刷所】 シメノ印刷工業株式会社

2023（令和5）年



ルリビタキ（トンボ池公園）

～ 保 護 司 信 条 ～

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって、

1. 公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
1. 明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の予防に努めます。
1. 常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

令和5年度総会を迎えて

岸和田地区保護司会

会長 メ野 久寿喜



新緑の季節となってきましたが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。4年目を迎えるコロナ禍の中、感染者や重症者の方々の数も減少に推移しているように思います。しかしながら、まだまだ油断できない生活が続くと思いますが、引き続き十分な感染対策をしながらの活動をよろしくお願いいたします。

さて、本日は岸和田地区保護司会が新しい体制でスタートします。私が岸和田地区保護司会の会長として6年間無事終えることは、皆様方のご協力ご支援の賜物と感謝しております。本場にありますがとうございました。

昨年を振り返りますとコロナ禍で活動制限を受ける中、各事業の見直しにも取り組みました。本年7月の、第73回社会を明るくする運動“の会場を従来のマドカホールから浪切ホールに変更。より多くの生徒たちの参加を願って作文コンテストの締切日を学校ごとの指定日とすることに変更。作文内

容の周知を図るために作文コンテストの内容説明チラシを12,000枚作製して、市内の全小・中学校生徒に配布します。又、作文コンテスト参加賞を、子どもたちが使いやすいものにするなど、より充実した杜明運動となるようにしていきます。

一方、第73回社会を明るくする運動“岸和田地区推進委員会の関連する団体との連携・充実を図っていきます。また、第5次地域福祉計画（再犯防止推進計画）の進行管理の為に立ち上げられた推進委員会の2年目を迎え、具体的な活動を効果的に進める為に、市役所担当各課や岸和田市社会福祉協議会とのより深い連携を図ります。

結びに、岸和田市の再犯防止・更生保護活動を充実させ、安全安心なまちづくりを目指してまいります。皆様方のご支援・ご協力を本年度もよろしくお願いいたします。

総会ごあいさつ

岸和田地区更生保護女性会

会長 長田 喜代子



新緑の季節を迎えました。岸和田地区保護司会のご盛会お祝い申しあげます。

保護司会の皆様には、平素より更生保護女性会への活動にご支援、ご協力

ごあいさつ

岸和田地区協力雇用主会

会長 石田 幸浩



保護司会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は協力雇用主会へのご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨今はようやく新型コロナウ

を賜り有難うございます。

コロナ禍の中施設への活動、事業等計画通り実施出来ない状況が続いておりましたが前年度は、安心・安全への配慮を考え活動を進めて参りました。

特に更生保護を目的とした新たな取り組みに向けては、保護司会より声を掛けて頂き改めてボランティア活動として学ぶ機会となりました。

去年は、大更女第五ブロックとして岸和田地区の活動報告をしました。活動の一つには、“三団体との連携で犯罪のないまちづくりを”をテーマにしたことでは、好評を頂きました。今後“共に”“一緒に”を大切に更生保護活動を推し進めて参ります。

イルスの感染も少しずつ下降状態になり、活動の範囲も戻ろうとしています。コロナ禍においても活動を続けてこられた保護司会の皆様にはいつもながら感謝申し上げます。

また、若い世代にかかわる事件も多く聞かれ、「犯罪と知らずに」といったケースも少なくありません。簡単に情報が入手できる現代社会にはたくさんの方の落とし穴があるので、我々大人たちが、また地域の協力やその活動が少しでも役立つことを願っています。

保護司会の皆様には今後も更なるご活躍、そしてご健勝を祈願いたします。

表彰・感謝状の栄誉を受けられた方々

令和4年度大阪更生保護大会に於いて、次の方々が表彰・感謝状を受けられました。

全国保護司連盟

理事長表彰

坂田 和博

近畿地方更生保護委員会 委員長表彰

大嶋千代治
川原 一紀
柿本早月子
大家 久良
岩崎 郁代

近畿地方保護司連盟 会長表彰

田中 明男
西出 宣子
井上富美子

近畿地方保護司連盟 会長感謝状(家族功労者)

鳥居三千代

大阪府知事 感謝状

鳥居 宏次

大阪保護観察所 所長表彰(保護司)

今口 一美
岩根 幸治
野村 恵子
渡部 誠夫

大阪保護観察所 所長表彰(永年勤続保護司)

大塚 一郎
川口 博巳
野口 泰宏
藤 正史
信貴 芳則
大嶋千代治
殿本マリ子
寺田 博

大阪保護観察所 所長感謝状

株式会社 栄光商会
代表取締役 池田 充
有限会社 リョウシン興産
代表取締役 野田 稜翔
泉光工業株式会社
代表取締役 寺田 歩

第72回

“社会を明るく
する運動”

民間功労者表彰

岸和田市
青少年指導員協議会
株式会社
テレビ岸和田

大阪保護司会連合会 会長表彰

松下 貴志
丸山みき代
清水 良和
川端 征子
杉本 哲夫
足田 浩三

大阪保護司会連合会 会長感謝状(家族功労者)

根来 貴子
西出由美子

定例会報告

◎ 第二回 令和4年10月

テーマ「人口支援・特別調整
(出口支援)について」

講師 一般社団法人よりそい

ネットおおさか 大阪府

地域生活定着センター

所長 山田真紀子氏

◎ 第三回 令和5年3月

テーマ「薬物依存者に対する

適切な対応方法

「家族向け」

講師 大阪府こころの健康総

合センター相談支援・

依存症対策課

主査 飯田未依子氏

第一回の各部会の役割につい

ては各部会で30分間グループ討

議を行い、それぞれの役割につ

いて学ぶことができました。

◆新任保護司研修

令和4年9月に実施しました。

◆3年未満保護司研修

令和4年12月の定例会終了後

に梶原鉄也保護観察官に出席頂

き、質疑応答形式で7名参加頂

き活発な意見が出てさらに保護

司としての役割などお互い確認

することができました。

この一年皆様には大変お世話

になりました。ありがとうございました。

研修部一同協議を重ね更に

充実を期してまいります。

◆統一研修

講師 梶原鉄也保護観察官

◎ 第一期 令和4年6月

テーマ「高齢・障害のある対象者

の処遇について」

◎ 第二期 令和4年9月

テーマ「少年法の改正について」

◎ 第三期 令和4年12月

テーマ「犯罪被害者施策」

◎ 第四期 令和5年2月

自由テーマ「新米保護司ドキュ

メンタリーから考

える保護司活動」

特に第四期では、バッドボー

イズ佐田正樹「保護司になる」

を視聴し、保護司の役割につい

てさらに理解を深めることがで

きました。

◆自主研修

◎ 第二回 令和4年5月

テーマ「各部会の役割について」

第72回 “社会を 明るくする運動”

第72回 “社会を明るくする運動” は、コロナ禍を乗り越え、『市民集会』を中

岸和田地区推進委員会

社会を明るくする運動は、毎年7月を強調月間として、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築こうとする全国的な運動です。この運動を推進するために、は広く関係機関・団体の参加を得て地区推進委員会を組織することとなっていますが、岸和田地区においては、これまで推進委員会が明確に組織されていませんでした。このような状況の中で、平成28年に再犯防止推進法が施行されたのを契機に、岸和田地区の更生保護団体は推進委員会の立ち上げを重点課題に掲げ、関係機関・団体と調整を進めてきました。そして準備が整った令和3年度はコロナ禍で開催出来ず、翌年の令和4年6月2日（木）市立公民館でようやく推進委員会を開催するこ



心に、作文コンテストや、岸城中学校との協働事業による環境浄化活動など活発な活動が復活しました。中でも特筆すべきは、ここ数年の懸案であった関係機関団体と一体で運動を推進するための『社会を明るくする運動推進委員会』が立ち上げられたことです。

とが出来ました。

推進委員会では、まず「委員長について」を議題とし、今後も引き続き保護司会会長が務めることが承認され、続いて「第72回 “社会を明るくする運動” 岸和田地区実施要綱（案）」が審議され、原案のとおり承認されました。続いて、大阪保護観察所堺支部の石井智之支部長から『第72回 “社会を明るくする運動” によって “生きづらさを生きていく。” ために “をテーマにご講演をいただきました。』

組織を立ち上げてはじめてとなる推進委員会を無事開催できたことは、関係する皆様方のご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

岸和田地区推進委員会 構成機関・団体並びに構成員	
構成団体	構成員
岸和田地区保護司会	会長・副会長・書記・会計・総務部長・研修部長・広報部長・組織部長
岸和田地区更生保護女性会	会長・副会長・書記・会計・理事
岸和田地区協力雇用主会	会長・副会長
岸和田市社会福祉協議会	会長・事務局長
岸和田市町会連合会	代表
岸和田市立中学校校長会	代表
岸和田市立小学校校長会	代表
岸和田市民生委員児童委員協議会	代表
岸和田少年補導員連絡会	代表
岸和田地区少年補導員連絡会	代表
岸和田市青少年育成連絡会	代表
岸和田市教育委員会・岸和田市	
生涯学習課	庶務担当課
福祉政策課	岸和田市関係課
人権・男女共同参画課	岸和田市関係課

作文コンテスト

第72回社会を明るくする運動の一環として、作文コンテストが実施されました。

小学校は中央・城内・東光・天神山・常盤・山滝の6校490作品、中学校は葛城・桜台の2校728作品の応募がありました。その中から各学校で推薦された22作品が審査の対象となり、社明運動岸和田地区推進委員会委員長賞に常盤小学校の牧ノ瀬さくらさんと葛城中学校の室田詩菜さん、岸和田市長賞に城内小学校の小谷莉央さんと桜台中学校の根未望愛さん、市議会議長賞に東光小学校の氏原壮一朗さんと葛城中学校の松本将太さん、岸和田市教育長賞に山



滝小学校の山真奈美さんと桜台中学校の久禮の瑞々さんが選

出されました。今回は締切の時期が早かったこともあせるせいか応募されなかった学校も見受けられました。次回からは応募を夏休みの宿題と兼ねて取むため、学校ごとで8月中旬に締め切っていたことになりました。



小学生の部



中学生の部

“社会を明るくする運動” 市民集会

令和4年度“社会を明るくする運動”

市民集会は、7月9日（土）午後2時から岸和田市立文化会館に於いて「2022年度少年非行・被害防止、暴走族追放強化月間」第72回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域の力」のテーマのもと“社会を明るくする運動”岸和田地区推進委員会の主催で実施されました。

コロナウィルスの影響で令和2年度3年度は、市民集会が中止となったため、3年ぶり、またソーシャルディスタンスを保つため会場の収容可能人数の半数の200名に絞った開催となりました。

第一部の式典では、野久喜岸和田



地区保護司会会長と永野耕平岸和田市長の主催者挨拶に始まり、大阪保護観察所堺支部長・石井智之様、岸和田市議会議長・西田武史様、大阪府岸和田警察署生活安全課長・相見享様の来賓挨拶に続き、来賓紹介

主催者紹介が行われました。

第二部では、まず『更生保護三団体に

よるリレートーク』が行われました。コーディネーターの大阪保護観察所堺支部長・石井智之様の進行によりプロジェクトの映像とともに保護司会・更生保護女性会・雇用主会の代表がそれぞれ意見を述べ、コーディネーターの進行での話し合いに続き、岸和田地区担当保護観察官・梶原鉄也様の来場者を引き込む名演出によって『立ち直り啓発トークライブ』に移りました。このトークライブは、吉本興業の大阪住みます芸人で、社会を明るくする運動大阪府PR大使の『SUPAN』さんの漫

オライブに始まり、途中で新緑会（岸和田の中高生で構成される子ども会をサポートするボランティア団体）のメンバーも加わりフリートークに移り、会場も含めてみんなで更生保護について楽しく語り合い、大いに盛り上がりました。



岸城中学校との協働事業による環境浄化活動

岸城中学校では毎年、南海本線岸和田駅周辺での環境浄化活動（落書き消し、ごみ拾い）を実施しています。（昨年はコロナ禍で中止）この行事に併せて、第72回“社会を明るくする運動”岸和田地区推進委員会としての街頭啓発活動を、令和4年7月21日（木）に多くの関係機関及び団体の協力をいただきながら行いました。



当日は、約230名の生徒の皆さんを中心にして、落書き消し班、清掃活動班、啓発物品配布班に分かれての活動に、道行く人々のあたたかい視線が感じられて有意義な行事であったと思います。



消去活動支援に関する要綱を、この7月に策定しました。町会単位等への支援として当該活動に必要な物品の貸し出し又は支給を行いながら、街の美観を確保するとともに、犯罪が起きにくいまちづくりを推進し、安全で安心な生活環境をつくることを目的としています。

“岸和田の町を汚さないでください！”

プリズン・サークル上映

日本初である撮影カメラが更生施設の現場に入り込んでのドキュメンタリー制作映画。少なからず更生保護活動に携わる身として、興味津々たる思いで会場に足を運びました。

当然のことながら一般映画とはかけ離れた重苦しさに先ず圧倒させられ、受刑者の発する一言一句が魂の叫び声に聴こえたのは私だけであつたであろうか。

中にはやむにやまれぬ事情でこの環境下、後悔と反省の日々を送っている当事者は、今後どのような生活設計を想い描いているのでしょうか。様々な憶測が私の頭の中を走馬燈の如く駆け巡るのでありました。

その上この映画製作者は、スクリーン越しに

出前講座

令和5年1月26日、第72回「社会を明るくする運動」岸城中学校更生保護出前事業を実施しました。これは、「薬物乱用防止教室」として、市立岸城中学校の二年生を対象に大阪ダルクの坂本高司様をお招きした講演会です。

ご自身の体験から、優越感や自分を大きく見せたいという気持ちから大麻に手を出したと。そして、覚せい剤で逮捕され、出所後、薬物依存症における問題を支援する立場としていることを話されました。

嫌われたくない、除け者にされたくないと思

我々に何を訴えかけようとしているのかを推測させられると同時に、微力ながらも何をすれば少しでもお役に立てる事が出来るのか、自問自答する私が居りました。そこで、「決して遅くはない！必ず立ち直る！」を合言葉として、常に同じ目線で対象者に寄り添い向かい合う事で何かしらの結果が生まればしないか？との考えに辿り着きました。

結びになりますが、私自身が心新たに見つめ直す良い機会になり、鑑賞者の方々と貴重な時間を共有させて頂けた事に感謝申し上げます。

わずに、その場から立ち去ることで自分を守るという言葉に生徒たちは真剣に話に聞き入っていました。

生徒だけでなく、先生や更生保護団体のメンバーや行政の担当課職員も参加した有意義な研修会となりました。今後、他の中学校でも実施し、薬物乱用防止の一助としたいと思います。



泉州寮訪問

令和4年10月30日(日)、秋晴れのなかでしたがコロナ禍のため、令和3年に引き続き食事しながらの激励会ではなく、施設関係者との意見交換会を目的として泉州寮を訪問しました。

訪問当日は、岸和田地区更生保護女性会から長田会長ほか3名と、保護司会からメ野会長ほか4名が参加し、計盛成施設長との意見交換会の予定が、施設の計らいと寮生3名の同意で、寮生を中心とした意見交換会としてスタートしました。寮生とは終始和やかで活発な意見交換となり、特に更生保護女性会との食事面での意見交換は楽しく、とても貴重な時間となりました。また、寮生の話を通して更生という光を見ることができた瞬間でもありました。施設長からは泉州寮の現在の取組や現状の課題などについて報告があり、今後も継続した支援が必要であることを確認できたことも収穫でした。

おわりに、寮生にメ野会長からプレゼントを手渡し、来年度こそは激励会開催を願いつつ泉州寮を後にしました。



研修旅行

11月6日(日)・7日(月)の二日間、2年に一度の一泊研修旅行を実施しました。本来なら昨年実施すべきところでしたが、コロナ感染状況が落ち着かず、一年延期と決まったため、今回の実施になったものです。

参加人数は24名ですが、3列のすべてが一人がけの椅子のバスを用意してもらい、隣の人と接触することがないように、コロナ対策を充分した上でのバス旅行になりました。

車中では、研修の一環として、DVDによるNHKスペシャル「再出発の町 少年と町の人たちの8カ月」及びプロフェッショナル 仕事の流儀「非行の根っこに寄り添うー少年育成指導官・堀井智帆ー」を鑑賞し、往復の時間を有効に活用させていただきました。

行き先は、明石海峡大橋から淡路島に渡り、大鳴門橋遊歩道「渦の道」で壮大な鳴門の渦を見物した後、鯛丸海月で昼食、その後、祖谷



溪の大歩
危峽観光
遊覧船に
乗り、太
古の昔の
大自然の

地殻変動の跡を見させてもらいました。

新祖谷温泉のホテルから橋に到着前には、日本三奇橋の一つ

「かずら橋」を渡るといふ少し怖い体験をして、ついでに、近くの「琵琶の滝」を見物、奢れるものも久しぶりという平家を偲ぶことができた気がしました。

翌日は、徳島県から香川県に渡り、四国66番札所雲辺寺にロープウェイで行き、標高9百メートル超の雲辺寺山頂公園から見下ろす景色を堪能しました。琴弾廻廊で昼食後、琴弾公園の巨大な砂絵「銭形」を見て、にわかに裕福になった気分になり、一路岸和田に向かいました。

今回の旅行は、全国旅行支援というキャンペーンの中での実施となりましたので、コロナ予防接種を受けた証明書持参の宿泊者全員に、国から3千円、三好市から2千円、合計5千円のお買物券がプレゼントされ、思いがけない贈り物に驚き、喜



新年の集い

1月14日(土)午前11時からグランドホールにおいて、恒例の新年の集いを開催しました。昨年はコロナ蔓延のため、式典のみとし、第二部の食事会等は省略しましたが、今年は、人数を140人ほどにしほり、各テーブル7人くらいとゆったりした間隔をとって、第二部まで3時間ほど、楽しく過ごすことができました。

昨年の祝吟「母」(松口月城作詞)が大変好評だったことから、今年も近澤實海さんに再度お願いし、「母」を吟じていただきました。独房の中でただ母を想い涙する非行少年を主題にした詩吟に、参加者一同、大変感激いたしました。第二部の出し物は「カメレオン」によるマジック、何も無いところからいろんなものが出てくる、千円札



が一万円札に変身、あれだけ上手に騙されると、夢を見ているようで、爽やかな気持ちになります。

新年の集い恒



例の抽選会では、今年の幸運をつかんだ人にプレゼントが当たった人か、来年以降当たる人ですから、今後の新年の集いを楽しみに、健康に気を付けて、いつまでも新年の集いに参加できるように頑張ります。

泉州地区の保護司会で、コロナが心配で新年の集いを中止するところが出たとの情報から、私たちもコロナを気にして、第二部は30分切り上げることに決め、司会者からもその旨皆さんにお知らせしたのですが、話が盛り上がり過ぎて30分切り上げは失敗し、2時過ぎにようやく解散となりました。

岸和田市人権問題研修

市職員の研修会に保護司が参加しました

令和4年8月18日（木）と25日（木）岸和田市職員会館において、大阪保護観察所堺支部の梶原鉄也保護観察官が、岸和田市職員に「行政職員として知っておくべき更生保護制度や保護司の活動について」をテーマに講義されました。そして、梶原鉄也保護観察官の講義のあと、「保護司からひとこと」として、保護司になったきっかけや、活動内容等を話す機会を与えていただきました。



研修は、主幹級以下全職員を対象に2日に分けて予定されていましたが、想定した以上に受講希望者が多く定員を超えたため、回数を1回増やして3回実施することになりました。大変でしたが希望者全員延べ144人の職員に受講いただけて良かったと思います。

研修受講後のアンケートでは、多くの方から、更生保護制度や保護司の活動を理解できたとの声をいただき、岸和田の更生保護が一歩前進したと実感しました。

岸和田市再犯防止推進計画が策定された令和4年度にこのような研修を企画いただいた岸和田市人事課に感謝申し上げます



転任保護司の紹介



森下 恵子

【趣味】一人旅
ローカル線の銘所
【座右の銘】照

平成25年に保護司を拝命致しましてから長年大阪市住吉地区で活動していましたが、昨年9月に岸和田地区へ移動になりました。

我が国の更生保護制度は戦後の混乱期から今日に至るまで官民一体となって過ちを犯した人の立ち直りを支えてきました。今や本制度は我が国の再犯防止施策を担う中核的な役割が期待されるようになってきていると思います。これ

までいろいろなケースを担当し面接してきた中で、ある時、自分自身が優しい心をもって、他人に優しく振舞えることが一番大切だと気付きました。それからは保護観察対象者と接する時、どんな事情があっても叱ることはありません。

保護司はボランティアではありませんが、これからも今まで培ってきた実績を踏まえ、創意工夫しながら地域の関係機関・団体との連携を充実させ保護司活動に尽力する所存でございます。皆様よろしくお願いいたします。

編集後記

今年の春は、早くやってくるようだ。

コロナ感染症による制限が大幅に緩和され、人々の心も少し高揚感に包まれている。しかし、反面、特殊詐欺やSNSを使用した犯罪等、新たな形の犯罪の発生も増え、社会情勢は不安定な状況ではなからうか。また、昨今の急激な物価の高騰は困窮者の生活を脅かしている状況だ。そのことが、犯罪を生む温床となることを危惧するところだ。

個々の力だけでは、解決できる問題ではないが、明るい社会の実現に向けて、更生保護への着実な実践が必要ではなからうか。

